

## 令和3年 2月市長定例記者会見

日 時：令和3年2月2日（火） 午前11時～

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、  
富山テレビ放送、チューリップテレビ、庄東タイムス、  
ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、  
未来創造課長、課税課長、地域振興・文化課長、人事課長、  
農林水産課長

### ○質疑応答の概要

Q1. 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について、現時点で感じている課題があれば伺いたい。

A1. 実際にこちらにワクチンが入ってくるスケジュール感や、どのくらいの数のワクチンが渡されるのかという詳細な計画がまだこちらに情報として来ていないので、詳細なシミュレーションをしたうえでの接種計画が立てられないことが課題としてあげられる。また、一接種あたり税抜き2,070円、税込み2,277円という金額が国から提示されており、この範囲内で経費を賄わなくてはならない。集団接種をする場合の会場に係る経費や接種をする住民の移動にかかる経費については別途国でも考慮するという話もあるようだが、例えば、個人クリニックを開業している方が営業を閉めて集団接種にご協力いただいた場合の協力金などの経費についてははっきりしていない。また、川崎市で行われたデモンストレーションを見ると、接種前後の待機時間の対応や接種後の事務的な処理にかなりの人員が必要になると思うが、2,070円という経費の中で賄えるのかが不安である。これについては、今後詳細なシミュレーション・想定なども検討しながら、足りない分については国などにしっかり声を上げ、安全、安心に接種を受けていただける体制を構築できるように今後もしっかり準備を進めていきたい。

Q 2. 申告相談会について、コロナ前は相談会を利用する人はどれくらいいたのか。また、「いみずe - 予約システム」は30分単位で日時を選択するが、30分で何人ほど相談者を受け入れるのか。

A 2. 令和2年2～3月の申告については、申告者の総数が5,700人で、一日あたりに換算すると約250人受付していた。今回については、この実績を踏まえ、大体同じくらい的人数になると想定している。予約システムについては、1ブース1人で、予約された方専用のブースとして3つ設定したいと考えているため、30分では3名受け入れることになる。

Q 3. 公募提案型市民協働事業審査会について、令和3年の提案事業には外国人に関するものが2つあるが、外国人住民の生活実態の把握は行政としても難しくなっているのか。また、この事業が審査会を通過して活動を始めの際は、活動費はどのくらい行政から出るのか。

A 3. 近隣の方との付き合いがなかなかない外国人住民の場合、突然本国に帰られたりして行動の把握が難しいということがあった。また、日本語でコミュニケーションがとれない方の場合、行政の必要な情報がなかなかご理解いただけないことで、どのような課題を持っておられるかも把握しづらいという現状がある。また、文化・風習の違いによるトラブルの相談もある。こうした実態把握の有効な手段をご提案いただけるのなら、事態を把握したうえでそれぞれの課題の解決に生かしていきたいと期待している。また、この外国人関係の事業では、活動費は190万円となる。必要な予算についてはそれぞれ提案の中で、対費用効果も採点の基準としながら審査する。

Q 4. 国の重要無形民俗文化財に指定答申された曳山・築山行事について、次のステップとしてユネスコ無形文化遺産候補を目指すことは視野に入れているのか。

A 4. 新たに国指定文化財になったものは随時ユネスコ無形文化遺産登録の目録に追加されていくと認識しており、またそういうお願いをしていかなければならないと考えている。追加された行事についても将来的にユネスコ無形文化遺産へ追加登録される可能性はあると考えている。ユネスコにおける審査のスケジュールや仕組みが関連してくるので、いつ頃になるか、どのくらいかかるかは申し上げられないが、早期の登録に向けて様々な活動をしていきたい。

Q 5. 大雪による農業被害について、市として救済措置はとるのか。

A 5. 農作物への被害の手当については、基本的に共済などが行うと考えている。パイプハウスなどの損壊については現在状況を調査・把握中だが、共済で手当てできず何らかの市の支援が必要だという状況が見えてくれば、手当を検討したい。